

Europe Indicators

発表日: 2023年7月31日(月)

欧州経済指標コメント: 4-6 月期ユーロ圏GDP

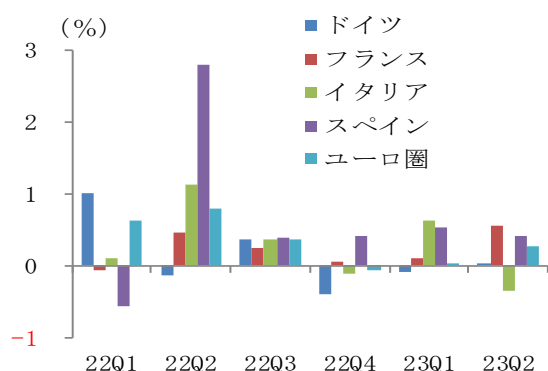
～こんなに強い気がしない～

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

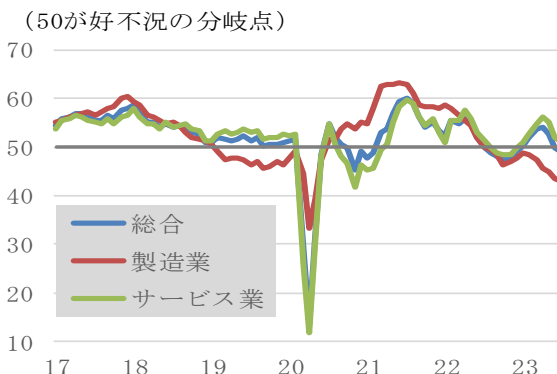
- 4～6月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比+0.3%と、過去2四半期の停滞（昨年10～12月期が同▲0.1%、1～3月期が同横這い）から持ち直した。景気に一段のブレーキが掛かっていることを示唆する月次指標も少なくないが、フランスの港湾ストライキの影響剥落やアイルランドの多国籍企業の統計捕捉上の問題などもあり、景気は予想外の高い成長を記録。
- 速報段階では需要項目別の内訳は公表されないが、既報の国別計数の動きは区々。ドイツ（前期：同▲0.1%→今期：同横這い）で個人消費の落ち込みに歯止めが掛かり、テクニカルリセッションを脱した。また、ドイツは過去2四半期が揃って上方修正された（昨年10～12月期が同▲0.5%→同▲0.4%、1～3月期が同▲0.3%→同▲0.1%）。フランス（同+0.1%→同+0.5%）では、消費や設備投資が落ち込むなか、1～3月期中の港湾ストライキの影響剥落で輸出が大幅に増加したことが成長を牽引した。イタリア（同+0.6%→同▲0.3%）は、外需の寄与がフラットにとどまるなか、内需の落ち込みが成長を下押しした。スペイン（同+0.5%→同+0.4%）は、外需が景気を下押しするなか、消費や設備投資が成長を牽引し、コロナ前の水準を回復した。その他のユーロ圏の国別計数は、ベルギー（同+0.4%→同+0.2%）、アイルランド（同▲2.8%→同+3.3%）、ラトビア（同+0.5%→同▲0.6%）、リトアニア（同▲2.1%→同+2.8%）、オーストリア（同+0.1%→同▲0.4%）、ポルトガル（同+1.6%→同横這い）。
- 物価高の悪影響や利上げ効果の浸透で、景気の下押し圧力が強まっている。7月の各種の業況判断が軒並み悪化しており、7～9月期入り後の景気も低迷が続いている。今後はインフレ率の鈍化で家計購買力の目減りや企業収益の圧迫がやや弱まることや、コロナ後の旅行需要の本格回復が成長を後押しする一方、一過性の要因の剥落、利上げ効果の浸透、世界経済の低迷が下押しするなか、年後半の景気は低空飛行が続く公算が大きい。

■ユーロ圏主要国の実質GDP成長率(前期比)



出所: Eurostat

■ユーロ圏の企業景況感(PMI)の推移



出所: S&P Global

■ユーロ圏GDP(前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>)

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
21/7-9月期	13.5	9.1	(8.0)	18.6	1.7	▲ 3.5	(▲ 0.8)	1.1	6.7	5.0
21/10-12月期	6.3	2.2	(6.6)	1.1	1.5	13.8	(3.1)	▲ 4.4	11.9	24.5
22/1-3月期	8.2	2.6	(▲ 0.8)	1.2	1.1	▲ 1.9	(▲ 1.2)	3.4	7.0	0.4
22/4-6月期	8.3	3.2	(3.3)	3.6	▲ 0.4	3.4	(0.8)	▲ 0.1	7.1	7.9
22/7-9月期	5.6	1.5	(4.1)	5.2	0.1	3.9	(0.7)	▲ 2.6	4.3	10.6
22/10-12月期	8.4	▲ 0.2	(▲ 2.4)	▲ 3.9	2.5	▲ 2.3	(▲ 0.4)	2.2	▲ 1.3	▲ 5.7
23/1-3月期	7.1	0.1	(▲ 2.7)	▲ 1.2	▲ 6.3	2.5	(▲ 1.2)	2.8	0.9	▲ 4.6
23/4-6月期	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-

出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

